

「そこに物語はある」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ ピアノの話

合唱コンクールで彼は見事にピアノ伴奏者の栄誉を勝ち取りました。そのクラスの合唱練習の合い間、彼の奏でる音に耳を奪われている私を見て、「でも、ピアノを初めてまだ1年なんですよ」と担任の田島先生が教えてくれます。とてもじゃないけれど、そのことが信じられなかった私は彼に「本当に？」と尋ねました。すると彼が答えてくれます。「はい。1年前には家にピアノの類はなかったので…」



彼がピアノを弾きたいと思い立ったのは1年前。でも、家にピアノはありません。そこで彼は紙に鍵盤を書いて、それで練習を始めます。でも、1枚の紙では当然、鍵盤の質感はありません。そこで彼は幾重にも紙を重ねて、分厚くすることで鍵盤らしさを築き、それを叩くことでピアノの練習としたそうです。音の出ないピアノ。やがて、そんな彼に胸を打たれた家の方がキーボードを買ってくれたそうです。今は電子ピアノに格上げされたとか。ちょっと胸が熱くなった私には、その話を聴いて思い出したエピソードがあります。

私の息子の話です。幼稚園に入った頃、友達の携帯型のゲーム機器を羨ましく思った彼は私に購入をせがみました。それでも「園児には早すぎるだろ」と思った私は彼にそう伝えました。彼は彼で私の性格をよく知っていますから、以来、購入をせがむことはありません。そのかわりに彼が始めたのは紙にゲーム機の図柄を書き、それで遊ぶこと。ボタンの箇所の質感を出すために幾重にも紙を重ねた音の出ない、キャラクターの動かないゲーム機。それでも楽しそうに遊ぶ彼のいじらしさに打たれた私はゲーム機を買い与えました。現在、彼は情報通信業の企業で働いています。1枚の紙きれでも様々な可能性を生み出してゆくのですね。

○ 吹奏楽部の話



照り付けるような日差しのもとでマーチング練習に励んでいた吹奏楽部。体育大会当日の演技は実に見事でした。でも、私は1枚も静止画を持っていません。隊列を組む練習から見ていた私はひとりの観客ではなく、財田先生や山本先生ほどではないものの、成功を祈る身内の気持だったのです。祈りながら、しっかりと動画に収めましたよ。

○ 『神高のあゆみ』の話

『神高のあゆみ』も同じく祈りながら動画を撮っていたため、準備段階のものしか静止画がありません。でも、『神高のあゆみ』幹部の粘り強い取組とそれに応えた1、2年生の頑張りで拍手喝采の大成功でしたね。



校舎に「体育大会」の大看板を設置してくれたのは柔道部員。毎年、ありがとう。でも屋上からの景観を満喫できるのは柔道部の特権ですね。



ちなみに左の写真はある日の合唱練習の際の一誠会館の玄関です。きれいに靴が揃えられています。ここにも物語があるのでしょうか。こんな日々が実に愛おしいのです。